高校生ICT Conference

資料1-1

高校生ICT Conferenceについて

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

（構成団体）

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

高校生ICT Conferenceが目指すもの

高校生ICT Conferenceは、次世代の社会を支える高校生が、自ら考え、他者の意見を聴き、議論し、 意見をまとめ、発表することにより、将来のインターネット社会に臨む環境整備の一助になることを目指す。

啓発活動における課題

- セミナーやシンポジウム形式に対する理解度・興味の薄れ
- 保護者層の参加率の低さ
- 自己責任に対する意識の希薄

■ネットが分からず対応できない保護者
■操作能力が高く、安易にネットを利用する高校生
■知識・経験が不足してトラブルに巻き込まれる小・中学生

大人からのおしつけでなく当事者の高校生が考える

負のスパイラルから正のスパイラルへ

「高校生ICT Conference」が持つ３つの意味

- 当事者である高校生自身の気づき
- 年少の子どもに行動できる高校生の育成
- 次世代の保護者の育成

■ リテラシーに加え、情報モラルを獲得した高校生
■ 身の回りに小・中学生のよき相談相手
■ リテラシーを持って子どものネット利用に目を配ることができる保護者

小・中学生

アドバイス

相談

高校生

知識の提供

モラルの提供

大人

高校生ICT Conferense がめざすデジタルシティズンシッププロセス

ICTの活用というテーマについて「考える機会」提供し「気づき」を体験することで、課題について主体的に理解を深める手法と習慣を得ることをめざす

網羅的啓発

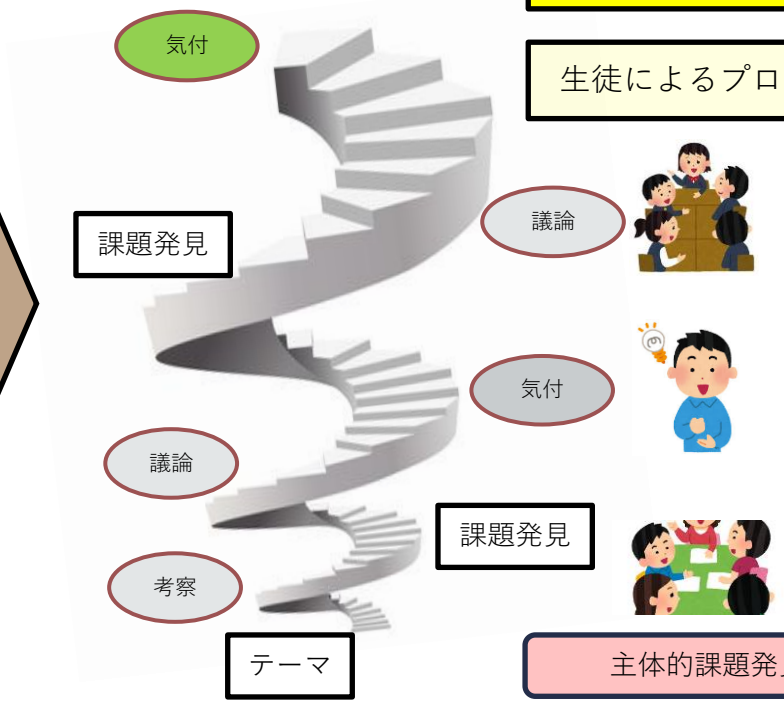
知識の伝達

- 課題A → 対処法
- 課題B → 指導
- 課題C → 対策
- 課題D → 注意
- 課題E → 自覚

受動的傾聴

手法と機会の提供

生徒によるプロセスの体験



主体的課題発見と気付

高校生ICT Conference開催概要

テーマ

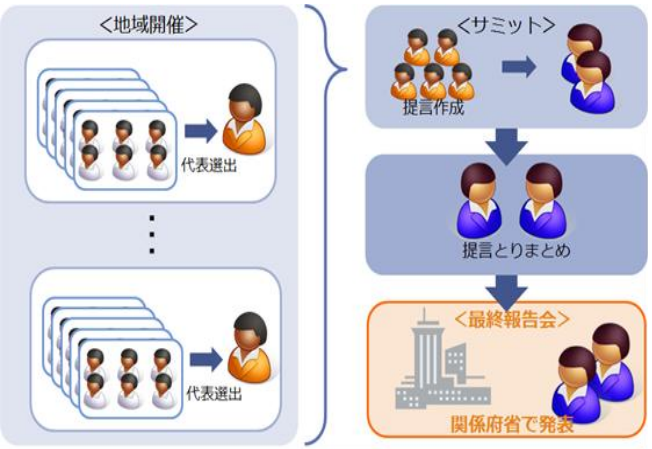
2011年度 「ケータイ・インターネットの在り方＆活用法」
2012年度 「スマートフォン時代の情報モラルと利活用」
2013年度 「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の５Ｗ１Ｈ」
2014年度 「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」
2015年度 「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！～高校生のボクたちだから～」
2016年度 「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」
2017年度 「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×（家族・学校・地域）～」
2018年度 「社会で活躍するためのICT活用法 ～18才成人化を控えて～」
2019年度 「人はなぜSNSを使うのか？ ～改めて考えるSNSの使い方～」
2020年度 「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～
2021年度 「フェイクを見極める」
2022年度 「デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」」
2023年度 「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー」

開催日程例

- **各地域開催（７月～10月）**
  各地でワークショップ（議論を重ねる熟議方式）形式の議論を実施し、地域代表1名を選出。

- **サミット(11月3日)**
  各地での議論をもとに、高校生が政府への提言をまとめるための討議を実施し、最終報告をする代表者を選出。

- **最終報告会(12月10日)**
  共催省庁に高校生からの提言を発表、意見交換。



今、高校生が考える生成AIとの付き合い方
ー「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考えるー

生成AIは、従来のインターネット利用方法を変革し、検索・生成技術に革新をもたらしています。

以前のテキスト検索では関連性の低い情報も表示されましたが、生成AIではイメージを文章で検索することができ、利便性が大きく向上しました。さらに、概要から文章を生成したり、言葉による指示で画像や動画を生成する能力も持つようになりました。これらにより、事実に基づかないコンテンツも簡単に作成できるようになりました。

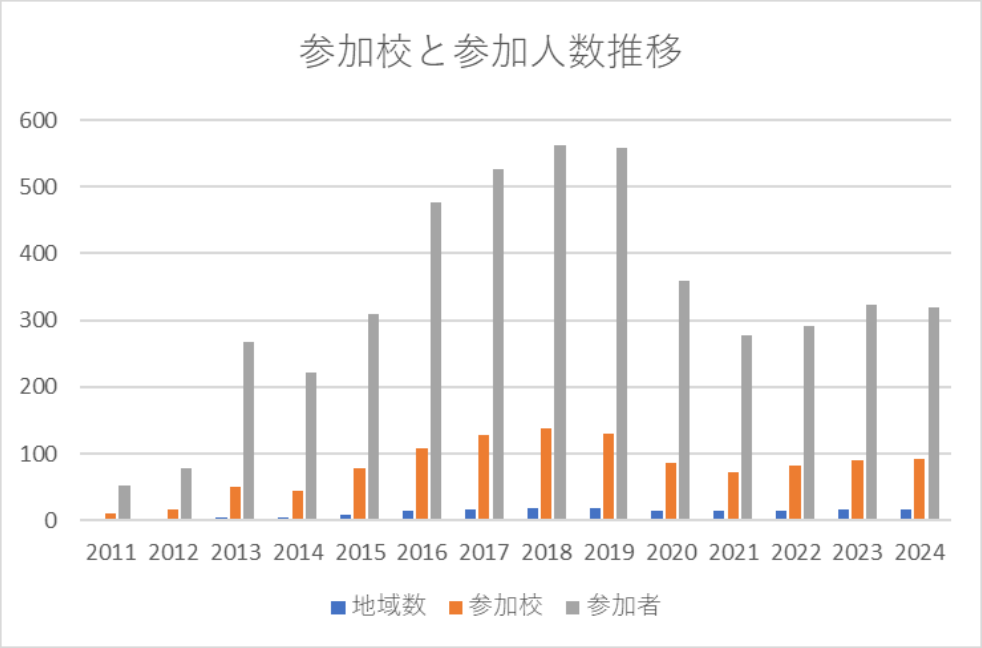
生成AIの急速な発展は、利用者の情報アクセスやイメージ発信を容易にし、利便性向上に寄与していますが、一方では利用者はフィルターバブルやエコーチェンバーの広がりで、偽情報や誤情報の拡散、また剽窃や著作権侵害に直面するリスクにもさらされています。利便性とリスクは表裏一体でありこれを踏まえたリテラシー向上が求められています。

生成AIの特徴について、将来の社会を担う高校生はどのように認識し、リスクを克服し、活用していくべきかを議論し、社会に提言します。

各地開催状況

2024年度　各地区実施状況と参加数推移

NO	開催日	開催地域	学校数	参加人数
1	2024/7/27	大分	15	37
2	2024/7/29	高知	2	15
3	2024/8/2	宮城	6	24
4	2024/8/8	新潟	11	22
5	2024/8/20	茨城	9	33
6	2024/8/24	長崎	3	9
7	2024/8/31	福岡	4	8
8	2024/9/14	兵庫	8	39
9	2024/9/15	愛知	4	17
10	2024/9/15	大阪	5	20
11	2024/9/29	札幌	3	14
12	2024/9/29	東京	4	20
13	2024/10/5	長野	3	15
14	2024/10/6	帯広	3	5
15	2024/10/6	奈良	5	32
16	2024/10/12	神奈川	5	6
17	2024/10/13	全国オンライン	3	4
計			93	320



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
地域数	1	2	5	5	9	14	17	18	19	15	15	14	17	17
参加校	11	17	51	44	78	107	128	137	129	86	73	83	91	93
参加者	52	79	267	221	310	476	526	562	559	360	278	291	323	320

※ 9/22石川については悪天候・大雨警報を受け、期日再設定も難しく中止と判断。一部の生徒は全国オンラインに代替参加

2024年度の開催まとめ

高校生ICT Conference

1、開催地域の増減（対前年同数：17→17地域開催）

・新規開催地域：宮城（新規）、神奈川、奈良（再立上）

・石川（豪雨災害のため中止）含む3地域未開催

2、概況

感染症の懸念が後退するも、台風、暴雨等の悪天候による開催可否の判断に迷う場面が増加傾向にあった。

3、開催方法と運営

（１）リアル開催　　：札幌、帯広、宮城、茨城、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、奈良、高知、福岡、大分

（２）ハイブリッド開催：新潟（リアル×オンライン同時）

（３）オンライン開催　：長野、長崎、全国オンライン

4、まとめ

・昨今、台風や豪雨災害等により、直前まで開催判断に迷うケースが増加傾向に

・事務局稼働１名→３名体制にすることで地域側事務局との連携がより深まった

・今年も地域事務局の熱意に支えられ、各地域開催は円滑に進めることが出来た

地域開催状況（写真）

札幌開催

愛知開催

新潟開催

帯広開催

大分開催

11/3（祝）サミット

日時：　2023年11月 3日（祝）　12:30～17:10
会場：　株式会社内田洋行 本社ビル 東京ユビキタス協創広場 CANVAS
（東京都中央区新川2-4-7）

1	札幌市立旭丘高校
2	北海道帯広柏葉高校
3	宮城県立宮城野高校
4	茨城県立常陸大宮高校
5	神奈川大学附属高校
6	神奈川県立平塚江南高校
7	新潟県立巻高校
8	長野県松本県ケ丘高校
9	清林館高校
10	大商学園高校
11	帝塚山高等学校
12	関西学院高等部
13	高知県立佐川高等学校
14	福岡県立筑前高等学校
15	長崎県立諫早商業高等学校
16	大分県立杵築高等学校
17	福井県立敦賀高等学校

〇会場参加者　80名

- 代表生徒　17名
- 引率教員　17名
- ご挨拶　7名
- ファシリテーター　4名
- 地域事務局代表他　26名
- 協賛社　2名
- 事務局　7名

2024年度サミットの模様

最終報告会

高校生ICT Conference

「高校生ICT Conference 2024」の成果を提言として代表者3名が関係省庁に報告

1、日程
12月10日（火）

2、スケジュール
1）総務省　（10：30～12：00）
2）こども家庭庁（14：00～16：00）
3）文部科学省　（16：30～17：30）

3、参加者
1）総務省　：　省内関係者
2）こども家庭庁
「青少年インターネット環境の整備等に係る検討会」
発表生徒、米田実行委員長
3）文部科学省　：　省内関係者

2024年度展開案

●コンセプト
生成ＡＩと社会の変化に関するテーマなどを選定中

●テーマ選定
上記展開のなかで見つけた課題の中から次年度のテーマ設定をはかる

●展開方法
運営委員会メンバー、地域事務局よりテーマを募り2025/1月末までをめどに決定へ

E N D